

令和3年度第2回一関市汚水処理計画推進会議 会議録

- 1 会議名 令和3年度第2回一関市汚水処理計画推進会議
- 2 開催日時 令和3年6月14日（月）午後1時30分から午後2時35分まで
- 3 開催場所 一関市役所本庁会議室棟第3会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 菅原繁雄委員、鈴木孝男委員、山田共子委員、佐々木親弘委員、石川晃委員、金野幸弘委員、皆川長子委員、小菅祐子委員、千葉俊一委員
※欠席委員 橋本京子委員
 - (2) 事務局 佐藤孝之上下水道部長、菅原正幸上下水道部次長兼下水道課長、佐藤伸一上下水道部次長兼東部上下水道課長、菅原佳下水道課長補佐兼下水道工務係長、鈴木真実普及係長、西山亜希恵下水道経営管理係長、鈴木圭東部上下水道課下水道係長、千葉彦旭下水道課主任主事、梁川直也下水道課主事、佐々木崇下水道課主事、小野寺智美下水道課主事
- 5 議 題
下水道整備計画見直し案について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人
- 8 審議内容
下水道整備計画見直し案について
資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。
委員 資料3ページ「⑤その他」の「その他」で、浄化槽とした場合の阻害要因のところで、「浄化槽が入れられない世帯が多い場合は下水道接続が必要と評価」とあるが、こういうところは今回の評価対象にあるか。
事務局 改めて1軒1軒浄化槽が入れられるか測ったわけではないが、狭い宅地が多いところは、もう一度現場の方を確認し、また今は浄化槽も小さくなっているので、浄化槽を設置することが可能かどうか見てきた。
委員 下水道整備するところは2か所という提案だが、浄化槽が入れられないところがないかという意味で聞いた。経費の面で浄化槽にしようと思うが、見逃していないか気がかりだった。
事務局 その土地の状況で工夫して設置できないかは見てきた。
委員 現地をこの間見たときに、すごく道幅が狭いとか、坂道なので、今回はこの

2件だけが下水道整備をすることはやむを得ないのかなという気はする。ただ、赤荻のほうはだんだん宅地が広がって、結局追いかけてこというか、家が建ってから下水道整備せざるを得ないので、その辺はどうなのか。

事務局 新築して浄化槽設置して間もない人も結構いるので、その方にどうやって下水道に接続していただくかというのは課題だと考えている。

委員 敷地がないところに浄化槽ではなく下水道をどんどんつけるというわけにはいかないのか。

事務局 人口密度がある程度ないとなかなか整備が進められないというところもある。

委員 例えば家を建てる時に、そのうちに下水道ができると思っていた人もいるのではないか。それに人口が、当初の下水道の計画の時よりぐっと下がっている。

事務局 人口減少はどうしても進んでいる。昨年度の懇談会でも、いつ下水道が来るのか、来るのか来ないのかははっきりしてほしいという意見をいただいていた。

委員 住民の意向調査はどうなっているのか。整備する2ルートの住民の意向はどうなのか。

事務局 住民ニーズの評価のところだが、接続希望は高いところでも49パーセント。山根堰ルート、南中田ルートが49パーセント。5割以上のところはなかった。

委員 50%未満でも下水道整備は可能なのか。

事務局 あとはこれからの人口の伸びや、今後の見込みを期待して2ルートとした。

委員 「その他」の中で私道や東北道横断等あるが、これらは特に問題ないのか。

事務局 道路の横断となると、経費の面で影響する。経費回収率も含めて評価している。私道については、民間の方が住宅を開発したときに私有地のまま道路として利用しているので、工事をする際には所有者からの了解がないと工事ができないということもあり、工事を進める上での課題と捉えている。

委員 人口は減少しているが、世帯数は増えてきている。その辺で人口密度と世帯数との絡みはどうか。人口密度の基準のとおりでやるのか、それとも世帯数が増えれば、人口密度が少なくてもやるのか。

事務局 世帯数が増えるということは、新築など住宅数も増え、人も増えてくると思う。

委員 ほかのルートでもだんだん世帯数が増えてきたら、また再度見直しをするのか。

事務局 今の中期計画は令和8年度までなので、その後の計画については状況による。

委員 山根堰ルートでやりたいという方が半数くらいいるが、経費回収率が若干悪いというデータが出ている。せっかくやりたいというのであれば、見直しても

いいと思う。

事務局 山根堰ルートは堰沿いに住宅があり、今の整備の試算は、1軒1軒照井堰の下に管を通さなくてはいけないということで見ている。そのため経費が掛かり増ししている。これが、仮に個人の自宅の土地に管を通してもいいとなり、照井堰を横断する管をできる限り減らせばもっと工事費を下げることができると考えられる。こういったところは、懇談会で説明をして、希望者が多い地区でもあるが、下水道の管が目の前に来ているので、管を繋ぐだけといえば繋ぐだけである。特殊事情ということもあるので、そういったところは懇談会で説明をして忌憚のないご意見をいただけたらありがたいと思っている。現時点ではあくまでも機械的に基準を設けて評価するとうなるということ。皆さんから、もし、うちの土地に管を通していいと言っていただけたら工事費をずっと安く抑えられる可能性があるという状況。

委員 最初がいいと言っても世代が替わったときに大変である。親はいいと言ったが、子どもが何で入れたと言うこともある。

委員 それは最初に念書をとるので、難しいのではないかな。

委員 水道管でも庭先に入っているところも結構ある。そういうところを修理したいと思っても、どうしてうちの門口に入れたのか、庭先に入れたのか、夜中に修理しにいて発電機をつけたりすると音で寝られないということ言われながら修理したこともあった。そういうことを考えると、民間の宅地に入れるのは考える必要がある。自宅の庭先、畑に入れるのは相談しながら進めていったほうがいい。

委員 いろんな面から調査して2地区を選定したということだと思うので、これで進めていくのが妥当ではないか。ただ、今後いかに利用者を増やしていくのかということが問題なので、その辺を、補助金を増やすというのは一気にはできないと思うが、なにか皆さんが下水道を引きやすいような取組をしながら進めていけばより利用が増えるのではないかなと感じるので、その点よろしくお願ひしたい。

事務局 今回ルートを決めるに当たって悩んだところがあった。先ほど話が出た山根堰ルート、真柴南中田ルートである。真柴南中田ルートは一関中学校わきの団地に入るほうと国道沿いと幹線を2ルートに分けている。団地だけにした場合、経費回収率が上がって整備できるのではないかと検討はしてみたが、なかなかそこまで上がらなかった。山根堰ルートと真柴南中田ルートは推進会議にかけるとに当たって、今回の整備区域から外したという経過がある。

事務局 浄化槽の補助金は、県内でも補助率が高い方で、設置費の6割くらいを補助できている。普及をどうするかということがこれから課題となってくる。工務店と一緒に周知して汚水処理を進めていければと考えている。懇談会で話題になったのは、浄化槽を設置している方が下水道につないだ時に、浄化槽の処分にも結構費用が掛かるということで、その辺が課題と考えている。

9 担 当 課 上下水道部下水道課